

授業科目	ソーシャルワーク実習Ⅱ（児童・障害児領域）					実務家教員担当科目	-
単位	4	履修	選択	開講年次	3	開講時期	通年
担当教員	文屋 典子						
授業概要	高齢者、障害児、障害者、医療、児童、地域福祉のいずれかの分野の実習施設・機関において、実務者（実習指導者）の指導のもと、ソーシャルワークに係る専門的知識と技術について実践的に学ぶ。実習は原則として、3年次の前期（6月）と後期（11月）に各90時間を実施する。また、前期と後期の実習先は同一施設・機関とする。						
授業形態	対面授業	授業 方法		実習			

学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	ソーシャルワークに係る基礎的知識・技術を習得し、実際の支援場面で活用できる。また、社会福祉士としての自己の課題や職業倫理について理解を深めることができる（具体的には以下の通り）。 <ol style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養うことができる。 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題について把握できる。 生活上の課題に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施およびその評価を行うことができる。 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解できる。 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方およびその具体的内容を実践的に理解できる。
理想的レベル	ソーシャルワークに係る知識や技術を応用し、クライエントの多様なニーズに総合的に対応できる。また、実習を通じて習得した支援技術を概念化・理論化し、他者に示すことができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	0	
小テスト	0	
レポート	0	
発表（口頭、プレゼンテーション）	0	
レポート外の提出物	40%	
その他	60%	実習への取り組みや課題の達成状況等で評価します。

カリキュラムマップ（該当DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	WE21234J
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	--------	----------

学習課題（予習・復習）

1回の目安時間（時間）

実習前に実習先で必要となる基礎的知識や支援技術について確認をしておくこと。また、実習後の整理・振り返りを十分に行うこと。

4

授業計画

第1回	【実習の概要】
	1. 原則として3年次の前期と後期に分散型実習として実施する。前期は6月上旬、後期は11月上旬に各90時間で実施する。
	2. 実習先は高齢者、障害児、障害者、医療、児童、地域福祉の6つの分野より選択する。前期と後期の実習先は同一施設・機関とする。実習先は学生の希望等を考慮し、大学側が決定する。
	3. 実習の目的、実習内容および必要書類の作成等については「実習指導1」および「実習指導2」の講義で説明する。
	4. 実習前・実習中・実習後の個別指導は、担当教員が行う。
※実習の準備状況（授業への出席、学習態度、健康状態など）によっては、実習を履修できない場合もある。また、実習開始後も実習生として不適切な行為等があった場合は、実習を中止し、単位を認めないことがある。その他、実習の履修要件については、キャンパスライフの「ソーシャルワーク実習の履修要件」をよく読んでおくこと。	
テキスト	「ソーシャルワーク実習マニュアル」西南女学院大学
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考図書：「ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）」中央法規
課題に対するフィードバックの方法	実習レポートや実習日誌等の提出物は、評価終了後にコメント等を付けて返却する。
学生へのメッセージ・コメント	各実習分野・施設に関連する法制度やサービス、クライエントの特性、支援技術等の知識について事前に理解を深めておいて下さい。また、実習課題を深める上でもボランティアや地域活動にも積極的に取り組んで下さい。